環衛連とＳＤＧs　今、私たちに出来ることは！

山口県宇部市環境衛生連合会　会長
渡 壁　正 英

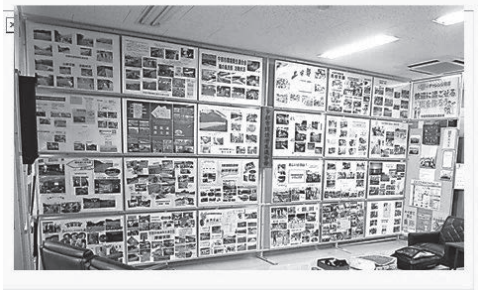
1.　初めに

環衛連とは、SDGs、ごみ減量などの推進活動を続けている団体で、正式には、宇部市環境衛生連合会といいます。1956 年 2 月 1 日発足 67周年を迎えます。宇部市から委託を受けて市の目指す「SDGs 未来都市」に向けた活動を推進、一般市民の衛生思想の向上、ごみ分別減量、環境衛生学、ごみ減量化推進に取り組んでいる団体です。6年後の未来、2030 年、実はあなたの今の意識の改革から始まっています。

私も毎月の荒ごみステーション等で立哨当番や分別指導、など 25 年間させて頂きごみ分別指導の鼬ごっこみたいですが持続しかないと思います。大げさかもしれませんが、一人一人の日常生活の中で、ほんの少し意識を変えて取り組んでみることで未来を変えることができます。

SDGs、「持続可能な開発目標」の頭文字を略した言葉です。2030 年までに先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際目標（17 のゴール）です。宇部市は、2018 年に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、世界に対しても持続可能な開発への貢献を図っています。持続可能な開発目標 SDGs の項目中、かなりのウエイトを占めるのが地球温暖化問題であります。宇部市環境衛生連合会事務局には宇部市内24ヶ所、支部の活動パネルが展示してあります（毎年更新）。

活動パネルの展示状況　ＳＤＧs13･17



17 のゴールの中で宇部市環境衛生連合会は、「④質の高い教育をみんなに」「⑪住み続けられるまちづくりを」「⑬気候変動に具体的な対策を」「⑭海の豊かさを守ろう⑮陸の豊かさを守ろう」の5つの活動に力を入れています。

具体的には、緑のカーテン 、段ボールコンポスト 、生ごみの水切り 、ポイ捨て禁止の啓発 、道路他清掃作業、放課後教室、環境学習などを推進・実行、一人一人の力は微力でも、多くの方が持続的に取り組み、仲間を増やして行けば大きな力となります。宇部市環境衛生連合会（中間組織の重要性）が掲げている「ハチドリのひとしずく作戦」を続けています。

2.　瀬戸内海岸の清掃

地元の海岸一斉清掃東岐波・西岐波住民ら1，250人が参加、市内の両地区から1993年頃から始めた活動で 1994 年からは「リフレッシュ瀬戸内」として地区外からも参加者があり、昨年度までに29年間（途中悪天候コロナ等中止）で延べ42，600人が参加し、約126トンのゴミを回収した。

海岸清掃　ＳＤＧs 11･14･15

ごみなどを拾う参加者たち（白土海水浴場で）

3．1　今、私たちにできること

それは**ノーレジ袋運動**です。レジ袋の多くがゴミになっています、又、川から海に流れて今問題

のマイクロプラスチック（分解されず半永久的に戻らない物質）を、えさと間違えて魚や海の生物が食べてそれを人が食べることになります。このレジ袋の削減は、誰にでもでき、今日からできる“地球を守る” SDGs14 の海の豊かさを守る運動です。

先人の格言に**「一身の安堵（自身の幸福）を思わば　先ず四表（東西南北の四方、世界）の静謐（平穏、平和）を祈らん者か」**とあります。家の中にゴミがなくても地球上のゴミは増え続けています、特にゴミを作らないルールを自分自身で決めるなどして、今いる場所で、できることから行動を起こしていこうと思いました。

3．2　FM キララで生出演

宇部市環境衛生連合会の各地区（旧校区）24 地区の支部長さんが毎月第3土曜日 11 時からFMキララに出演して全地区の環境活動をシリーズで紹介し、今自分たちができる些細なＳＤＧsを進める事が大きな変化になることを毎月自分の地区（地域）の紹介をしています。

家の中にゴミがなくても地球上のゴミは増え続けています、特にゴミを作らないルールを自分自身で決めるなどして、今いる場所で、今できることから行動を起こしていこうと思います。又、放送審査委員会も一般市民の庶民の声を届けていることに称賛の声が♪!!

3．3　ハチドリのひとしずく

マイ箸生活を、平成 11 年頃から今に続けています。どこに行くにもカバンの中には必ずマイ箸を備えるようになった、ある時、食堂で昼食をとった折、はいプレゼントと箸を返すとお客さんに「箸にこだわりがあるんですね！」言われ、「いやいやエコの為に」と私は返答すると、何やらわかったような　わからないような反応が帰ってくる時代もありました。また、今のようにマイバックがまだ定着していない時から買い物には必ずマイバックを持参していました。忘れた時などは、商品を両脇に抱えて店を出ると、妻は「変人と見られるからやめて」と注意を受けたものです。

こうした行動は私の強いこだわりがあったためです。南アメリカ先住民の物語に**『森が燃えていました　森の生き物たちはわれさきにと　逃げていきました　でもクリキンディという名のハチドリだけは行ったり来たり口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは　火の上に落としていきます　動物たちはそれを見て　「そんなことをしていったい何になるんだ」**と笑います。クリキンディはこう答えました **「私は、私にできることをしているだけ」**』とハチドリのクリキンディが立ち向かった山火事にたとえられますがバタフライ効果のように大きな変化となるからです。

ＳＤＧsのキーワード「誰も置き去りにしない・誰一人取り残さない・自分にできる行動の6年」と捉え、2030 年を目指し、私たちが日常生活に簡単に取り入れることが出来る行動です。

4.　繋げたい未来へ

宇部市立琴芝小学校放課後教室で環境問題に小学生が凄く関心を持っているのに感動しました。増え続けるプラスチックごみは 2050 年には魚の量を上回ると言われています。自然に帰らない素材のため、何百年も海に残ります。太陽光や波の力によってプラスチックはどんどん分解されて5ミリ以下の「マイクロプラスチック」になり、魚介類の体内に入り、その魚を人間が食べます。毎週クレジットカード1枚分のプラスチックを食べている可能性があると子供達に伝えると「エー！怖いと」驚いていました。日本は一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が年間 32 キロと世界第 2 位の多さなどについて学んだ後、今後どうしたらいいのか質問したところ、「海に流れる前にごみを拾う」と答

えてくれました。 また、清掃活動に参加してくれた数人の子供は「自分がいい気持ちになる」、「褒められて嬉しい」、「何か気持ちがすっきりした」と口々に感想を述べたのに驚きました。「マイバック・マイボトル・ポイ捨てをしない」など大人顔負けの答えに思わず拍手が!!

塩田川の魚の放流　ＳＤＧｓ11・14・15

毎年8月に親子3代クリーン作戦として実施しています。ゴミ空き缶等の回収活動でも親と一緒に未来っ子たちがはりきって参加している光景にＳＤＧs14（海の豊かさを守ろう）17（パートナーシップで目標を達成しよう）を実感し、地球温暖化防止への対処はコロナという危機をきっかけにむしろ加速するのではと感じさせられます。今のピンチをピンチで終わらせずチャンスと発想を変える、仏典に**「変毒為薬」（毒を変じて薬と為す）**と言う言葉があります。環境問題コロナ問題を毒と捉えるならば、その毒を変じてより良い環境へと我々人間が勇気と知恵を働かせこの大事な地球を子供たちへと繋げていくことだと思います。